

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28112 里山の生きものにふれよう



開催日: 2016年8月27日(土)

実施機関: 東京農業大学

(実施場所) 早野聖地公園内早野梅ヶ谷緑地保全
地区

実施代表者: 鈴木貢次郎

(所属・職名) (地域環境科学部造園科学科・教授)

受講生: 小学生6名, 中学生4名, 高校生1名

計11名

関連URL:

【実施内容】

東京農業大学地域環境科学部造園科学科のスタッフにより、日常行っている「実学主義」にのっとり、地域における里山の役割、機能、その重要性を、体験的に学び、地域にどのように貢献できるのかを紹介した。

本学地域環境科学部と川崎市環境局間(現建設緑政局緑政部緑政課)で平成22年3月31日に交わした「かわさき多摩丘陵グリーンコンソーシアムの構築を目指した確認書」に基づき、本学造園科学科が活動している神奈川県川崎市麻生区の早野聖地公園(霊園)の公園域内にある早野梅ヶ谷特別緑地保全地区において、植物の観察と、実際に行ってきた貴重な植物を守るための管理(下草刈りや間伐)手法を紹介し、学習した。

当日は、台風により、大雨となったため、午後から行う予定のタケの間伐実習を中止し、室内での学習時間を予定より増やした。室内での学習時間とは小学生、中学生、高校生とも、国語、理科(生物)に表現されている植物名を上げる作業である。サクラやナノハナなど日常慣れ親しんでいる植物名の他に、関東地方にはみられない高山植物名や、国語における俳句などで読まれている秋の七草など、受講生は100種類内外の種をあげた。

その後、野外にて、里山を構成する植物であるコナラやクヌギの違い、秋の七草であるススキやクズ、ゴンズイ、コブシの果実の形態や散布方法の特徴、サクラの原種であるヤマザクラとその巨木の観察、水辺に生育する植物の生態、有用植物、貴重植物(タマノカンアオイ)の特徴等について、実物を観察しながら説明した。また都市近郊における里山の働き、その里山を保全するための手法などについて説明した。

なお、事前準備において、事務局には準備物の購入等や大学独自のチラシの作成、関連する高校等へチラシの配布等をお願いするなど、密接に連絡を取り合った。また、広報については、本プログラムの実施にあたり、周辺の関連校へのチラシの配布や、学内における諸行事(キャンパス見学会等へのチラシの配布)において行った。また、神奈川県での開催から県が主催する小中高生向け夏休みイベント等の特集をした「かながわサイエンスサマー」に本プログラムを掲載し、その他関連する夏休みのイベント紹介への参加等広報活動に努めた。このため今年度は、募集〆切日には、定員(30名)と同数の30名の受講生の受付を行うことができた。ただし今回は、昨年度と同様に1回の開催としたが、当日台風の影響もあり、大雨となり欠席者が多く実際の参加者は11名となった。

当日のスケジュールは、次の通りである。

- 9:00-9:30 現地到着, 道具などの準備
- 9:30-9:45 受講生 実施会場集合, 開講式(1日のスケジュールの説明, 科研費の説明)
- 9:45-10:30 室内作業, 国語と理科(生物)の教科書に表現されている植物名を上げる。
- 10:30-12:30 里山内(早野梅ヶ谷特別緑地保全地区)にて植物等の観察, 指導
- 12:30-13:00 昼食(教員等スタッフ、受講生は各自持参)
- 13:00-13:30 “修了式(アンケート記入, 未来博士号授与), 受講生解散
教員等スタッフ 道具の片付け”

【実施の様子】



室内学習の様子



現地にて植物に関する説明の様子

【実施分担者】

- 栗野隆 地域環境科学部造園科学科 准教授
- 水庭千鶴子 地域環境科学部造園科学科 准教授
- 金澤弓子 地域環境科学部造園科学科 助手

【実施協力者】 15名

【事務担当者】 菅田 隆(エクステンションセンター事務室)